

地域おこし協力隊

～新たに2人を採用～

町では、5月から新たに2人を「地域おこし協力隊」として採用しました。
隊員は、地域や町と連携しながら、交流人口の拡大や、地域資源の発掘・情報発信に取り組んでいきます。

ますだ ひろみつ
益田 啓光さん (36)



はじめまして！5月から地域おこし協力隊に着任した益田啓光です。
ギターの弾語りが趣味の熊本出身です。今年の3月までの半年間、事業承継や移住に関する仕事で長島を11回訪問し、76泊している間にすっかり長島に魅せられてしまい、4月に会社を辞め、長島町地域おこし協力隊に応募しました。
「事業者の採用支援」、「空き家管理事業」の2つを基礎としながら、元長島住民のUターンや他地域からの移住者に対して、仕事と家を提供できる体制を作るのが私の役目です。坊主でメガネの見慣れない半ズボンを見かけたら「お！髪切った？」と気軽に声をかけてください！よろしくお願いします！

たのうえ しょうご
田ノ上 尚吾さん (30)



5月から地域おこし協力隊に着任しました田ノ上尚吾です。
出身はいちき串木野市で、学生時代は長距離選手として駅伝など走っていました。
スポーツを通して長島町へ人を呼び込みたく、総合運動公園計画もあるので施設を活用した陸上合宿の誘致をしていきたいと思っています。
私自身も、長島一周駅伝、県下一周駅伝など目指して頑張っていきたいと思っています。よろしくお願いします。

第4回「島TECH」を開催

5月3日から7日の5日間にかけて4回目となる「島TECH」が開催されました。
「島TECH」では高校生が長島町の事業者宅にホームステイし、その事業者が抱えている課題を高校生ならではのアイデアで解決し、それを形にするまでをやり抜きます。
今回は、まるしょう水産（白瀬・赤崎昭吾代表）の協力をもらい、参加した高校生らが、まるしょう水産のWebサイトを作成しました。
○今回、作成したまるしょう水産のWebサイト
<http://nagashimaya-marushou.site/>



↑完成後、参加者らと記念撮影をする赤崎さん(写真中央)

町内の中高生を募集

～探求型キャリア教育プログラム「SOCIAL CHANGE」～



長島大陸Nセンターでは、株式会社教育と探求社（東京都）と提携し、長島町内の中学生、高校生を対象にした探求型キャリア教育プログラム「SOCIAL CHANGE」を開催します。
このプログラムでは、参加する中高生が自ら課題を発見し、仲間と共に解決策を考えることを楽しみながら体験。21世紀に必要とされる「対話による課題解決」を学ぶプログラムです。
今年の夏休みは、長島大陸Nセンターで仲間と一緒に過ごしてみませんか？皆さんの応募をお待ちしています。

- 開催日
8月21日（月）・22日（火）の2日間
- 開催場所
長島大陸Nセンター
- 参加費 800円（2日目の昼食代）
- 参加資格・定員
長島町内の中学生、高校生・30人
- 申し込み方法
<http://ncenter-nagashima.com/socialchange/>
- 申込締切 7月31日（月）
- 問い合わせ先
役場総務課地方創生 ☎（86）1111 [代表]

辻調理師専門学校が特別講演

5月6日、長島町と「食による地方創生の包括連携協定」を締結している辻調理師専門学校（大阪府）の、尾藤 環 企画部長兼産学連携教育推進室長が、今後の長島町との取り組みや、世界の変化し続ける美食の価値について特別公演を行いました。
世界の食事情を知る約14万人の卒業生ネットワークを持つ同校の、普段はなかなか聞くことがない話に、参加した町内外の学生、生産者、主婦、事業経営者らは興味深く耳を傾け、さまざまな意見交換が行われていました。



↑変化し続ける美食の価値について講演する尾堂氏

新たなサービスで外国人観光客との文化交流を図る

5月13日から14日と、20日から21日の2回にわたって、外国人観光客10人が長島町の暮らしを体験するツアーに参加し、長島の自然と町民とのふれあいを楽しみました。
このツアーは、外国人観光客と地元の人が文化交流できる場を提供することで、過疎の問題の解決を図る新たなサービス「Tabimart」を活用して実現されました。
「Tabimart」は、2006年にノーベル平和賞を受賞したムハマド・ユヌス博士が審査を行う「ユヌス&ソーシャルビジネスデザインコンテスト」（九州大学ユヌス&椎木ソーシャルビジネス研究センター主催）で、今年優勝した新しいビジネスプランです。
今回のツアーに参加したオーストラリア・中国・インド・韓国・イギリス・ハンガリーなどさまざ

な国の人が長島の赤土ジャガイモの掘り取りや、養殖場の見学・釣り体験などを楽しみ、交流会をかねたバーベキューでは、地元の子どもたちも参加し、英語での会話に挑んでいました。



↑さまざまな体験プログラムを楽しむ外国人観光客ら